調律ワンダフル

'41. 6. 13
中日スポーツ

名ピアニスト、ルービンシュタインが十一日午後、東京文化会館に現われ、十二日から開始する演奏会用のピアノのひきためしをやった。

ピアノ会場も満足

ルービンシュタイン

このピアノは西独ハンブルクからわざわざ取り寄せたスタインウエイ製で、世界的に有名な調律師斎藤義孝氏が三日がかりで調整したもの。ルービンシュタインは前日の記者会見でみせたユーモアたっぷりな態度とはガラリと違ってふきげんな表情で現われた。

演奏会当日は舞台写真はとらないかわりに、この日のポーズを取材したいという報道陣の申し入れがあり、エンビ服姿でピアノに向かった。ベートーベンのソナタ「熱情」の第二楽章をはじめショパンの「夜想曲」モーツアルトの「ピアノ協奏曲」K466などを一部ずつ軽くひきまくるうちに「ワンダフル、すばらしい調律をしてくれた」とたちまちきげんをなおし、カメラマンに向かっておどけてみせたりした。

「私は練習をやらないのだ」と語ったとおり、ピアノをいたぶりしているようにとりとめもないひき方だったが、明確なタッチと味わい深い音色を発揮していた。

「りっぱな会場で何もかも満足だ。日本のカメラマンはずいぶんたくさんとりまくるが、私のからだの中まで写す気なのかね」とドッと笑わせ約十五分後に引き揚げて行った。【写真は、よく調律されていると満足げにひきまくるルービンシュタイン】